

地元の情報紙 26年5月号 81号

とりがい秀夫の地域ニュース

南千住8-3-3-201 電話090(1201)1297

携帯メール torigaihideo@ezweb.ne.jp



セメントサイロ跡地協議会再開 事業者決定は今年夏頃か 6月意見集約

6月2日にセメントサイロ跡地協議会が再開されることになりました。今回は3回目となります。この協議会は南千住地域だけでなく、荒川区の経済活動に大きな影響を及ぼす跡地開発を協議するもので内外からの関心も高くなっています。今回の協議を経てJR貨物会社が事業者を決定し、セメントサイロが解体されると同時に新たな施設が建設されます。



現在、名乗りを上げている事業者は複数社程あるとの情報もありますが、次回の「地域ニュース」で報告をさせていただきます。

荒川区議会「通年議会」始まる 23区初 5月12日から来年4月末まで 354日

議会改革などを進めている荒川区議会はこの度23区初となる「通年議会」を導入しました。これに伴い開始時間も従来午後1時からでしたが、午前10時から6時までとなり、議員の質問時間も40分から50分に拡大しました。これまでは区長が議会を招集しましたが、これからは議長の招集のもと会議が行われます。



コミバス「汐入さくら」中型車に 利用者増に伴い来年3月から

「汐入さくら」の利用者は現在、1日、
1,300人を超えるようになりました。

【下図参照】特に雨の日が混雑しています。
その対策として、荒川区では京成バスと協議
し、現在の小型バスから50人位の中型車に
変更することになりました。導入時期は
来年3月頃に予定しています。このことによ
り利用者にとってはいづらか混雑が解消するのではないのでしょうか。



コース	南千住ルート	町屋ルート	北千住ルート	汐入ルート
1日の利用客	1,400	500	400	1,300

南千住コミバス右回りルート開始 来春3月

南千住駅 サンパール荒川5～6分 要望実現

汐入地区の住民からの長い間の要望の一つである、コミュニティバス「南千住さくら」の南千住駅からの逆回りルートの開設。自民党は勿論、私も担当課に要望を伝えてきました。荒川区は京成バスと協議し、新たなバスを導入し右回りコースが決定しました。運行時期は来年3月の予定。これにより南千住ルートは双方向運行となり利用者にとって朗報となります。

荒川区の待機児数南千住地区0人

この度、荒川区は保育園の待機児児童数を発表しました。「汐入にじの樹」保育園の開設等の影響もあり、荒川区全体では8名の待機児と昨年より大幅な減少となりました。横浜市の指数に直すと荒川区は待機児が0人となります

8丁目「にじの樹保育園」

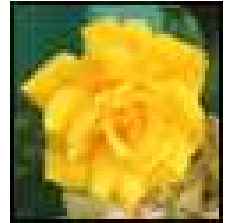


南千住周辺の花の見どころ

現在都電沿線は**バラが満開**！6月初旬頃まで



現在都電沿線では大輪のバラが咲き誇り、ピークを迎えています。なお、6月2日(日)迄**都電バラ号**が運行中！前後2種類のヘッドマークを掲出し、車内はバラの造花で装飾をしています。都電バラ号に乗って、荒川区のバラを見に出かけませんか？



葛飾「堀切菖蒲園菖蒲まつり」 始まる！



日時

6月1日(日)から6月25日(水)

会場・堀切菖蒲園・京成関屋駅利用

(開園時間：午前8時から午後6時まで。

菖蒲まつり期間中のみ

入園料等・入園無料

花菖蒲の株数約200種6000株)

台東区さつきフェスティバル

開催日：平成26年5月28日から6月2日

9時から18時最終日は16時迄

開催場所：上野公園 噴水前広場

初夏を彩る恒例行事で、上野公園噴水前広場

で開催されます。皐月の銘花、銘木等が多数展示され、大勢の愛好家でにぎわっています。会場では、初心者向けの講習会(1日1回午後)や、さつきの販売も行われます。



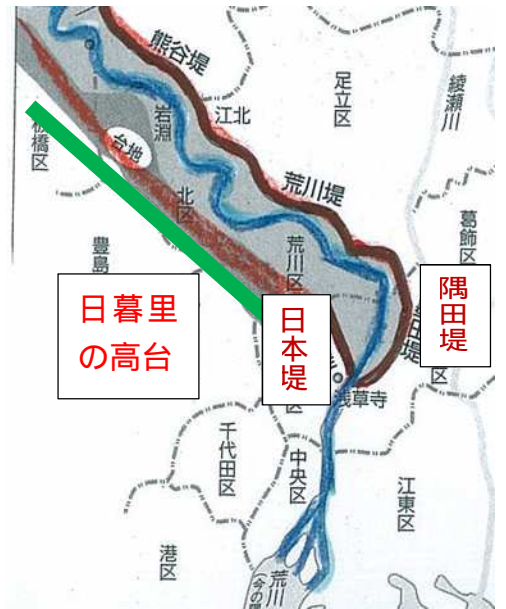
江戸の水害を守った「日本堤」と「墨田堤」

前回に引き続き、江戸の町を苦しめた「水害」とその対策について書かせていただきます。江戸の町の大改造を行った最大の原因は、今から360年前の1657年に本郷での寺？から出火したといわれている明暦の大火、



広重「隅田川花盛の図」

振袖火事です。江戸城本丸を始め当時の江戸の三分の一を焼き尽くし、10万人以上の命を奪ったといわれています。これにより上野や両国に日除け地として広小路が出来、武家も上屋敷の他にも下屋敷などが認められます。又、南千住の回向院の本家が両国に設置され焼死者を弔います。この火事までは江戸の町は隅田川の内側でしたが、この後、当時「下総国」今の「千葉県」であった墨田区側も江戸の町に編入させます。この事により、江戸の町の範囲が広がり、水害対策は隅田川を挟む形で整備されていきます。



幕府が目をつけたのが足立区側にあった熊谷堤を利用し、荒川堤、隅田堤を強化していきます。この完成で、日本堤と隅田堤で隅田川を挟み込む事になり、洪水のときには両堤の内側が遊水地の役割を果たす事になりました。さらに8代将軍吉宗は隅田堤を守るために桜の木を植え、市民に花見をさせると同時に堤防強化も行いました。周辺には次々と料亭が誘致され江戸で一番の料亭街が形成されていきます。当時の汐入地区は両堤の間に当たるため、頻繁に水害の影響を受けたのではないのでしょうか。この為当時の汐入周辺の多くは農業を営んでいましたが、洪水になるとたちまち一階部分は水浸しになるので、その防御として、軒先に船を吊るして置き、水害になると役立てたと考えられます。